

イノシシによる農作物被害とその対策

島根県中山間地域研究センター
鳥獣対策科

イノシシによる農作物被害

島根県では県西部の山地に限られていたイノシシの分布域が1970年代以降に拡大し、1980年代半ばまでには島根半島を除く県全域でイノシシが生息するようになりました。これに伴い県内での農作物被害も急増し、現在では捕獲数が10,000頭/年を、被害面積は30～35ha/年（NOSAI島根 私信）を超えています。しかし、被害については、

データの信頼性や均質性にバラツキがあるなどの問題のため分析が難しく、なかなかその特徴をつかむことができませんでした。こうした中、2000年度からNOSAI島根の協力を得て被害の特徴を把握することができるようになりました。図1は、イノシシの被害が島根県内でいつ頃発生するかを示しています。6月以前から被害はみられますが、8月初旬から9月初旬に集中し、1,035件の被害のうち861件（83.2%）がこの時期に発生しています。図2は、水稻の生育状態から、被害がどの時期に発生したかを類推したものです。これは収穫予定日から概算しました。出穂以前から被害がみられるものの、大半（1,033件中754件、73.0%）が乳熟期以降に発生しています。

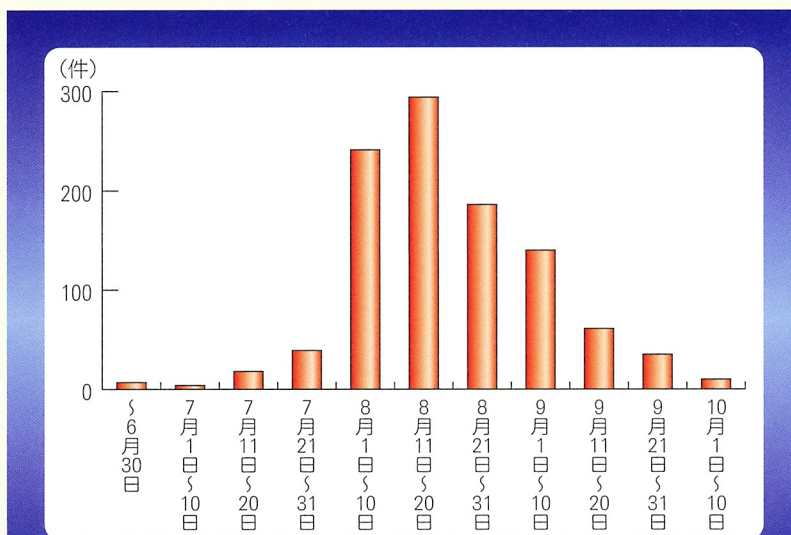


図1 島根県におけるイノシシ被害発生時期の分布
(NOSAI島根のデータを基に島根県中山間地域研究センターが作成)

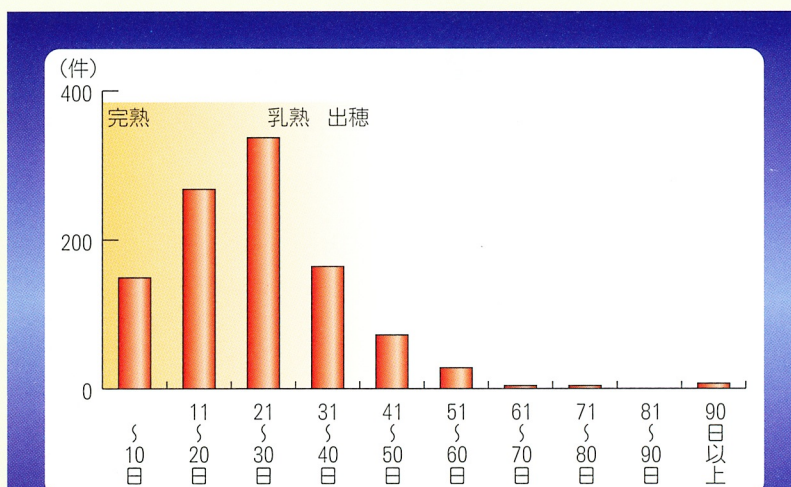


図2 収穫前日数別のイノシシ被害発生件数
(NOSAI島根のデータを基に島根県中山間地域研究センターが作成)